

群馬県鉱工業指数 令和6年12月分

1. 公表内容

12月の鉱工業生産指数（季節調整済）は、業務用機械工業、電子部品・デバイス工業などが低下したことから、3か月連続のマイナスとなった。

○概況

生産、出荷は低下、在庫は上昇で推移

◆12月の主な数値の動向（調査産業計）

（令和2年＝100）

	季節調整済指数			原 指 数		
	総合指数	前月比(%)		総合指数	前年同月比(%)	
生 産	102.3	▲1.6	3か月連続－	103.1	▲7.7	2か月連続－
出 荷	98.2	▲2.2	2か月連続－	103.5	▲9.1	2か月連続－
在 庫	158.2	1.5	3か月ぶり＋	154.3	28.4	4か月連続＋
在庫率	149.2	5.0		139.1	26.9	

○生産指数は、季節調整済指数で、3か月連続のマイナス、原指数で、2か月連続のマイナスとなった。

○出荷指数は、季節調整済指数で、2か月連続のマイナス、原指数で、2か月連続のマイナスとなった。

○在庫指数は、季節調整済指数で、3か月ぶりのプラス、原指数で、4か月連続のプラスとなった。

○総合指数前月比の伸び率（上昇又は低下）に影響を与えた主な業種

（）内は前月比

<生産>低下:業務用機械工業

(▲31.5%)、電子部品・デバイス工業

(▲15.8%)

<出荷>低下:輸送機械工業

(▲4.0%)、業務用機械工業

(▲29.6%)

<在庫>上昇:化学工業

(4.5%)、プラスチック製品工業

(8.1%)

○前月比が最も大きかった業種

<生産>上昇:印刷業

(19.5%)／低下:業務用機械工業

(▲31.5%)

<出荷>上昇:印刷業

(18.6%)／低下:業務用機械工業

(▲29.6%)

<在庫>上昇:情報通信機械工業

(46.3%)／低下:電気機械工業

(▲17.3%)

2. 事業の概要

【目的】

県内の鉱業、製造業等の事業所における生産量、出荷量、在庫量の動態を調査し、指数化することにより、県内の産業活動の状況を総合的に把握し、景気動向の分析等のための基礎資料とする。

【作成方法】

令和2年（2020年）を基準年として、その鉱工業製品の1か月当たりの平均生産量、出荷量、在庫量を算出し、各品目の基準時ウェイトで加重平均して指数化する。

【各指数の品目数】

- ・生産指数・・・171品目
- ・出荷指数・・・164品目
- ・在庫指数・・・91品目
- ・在庫率指数・・・84品目

《参考事項》

- ・季節調整済指数…1年を周期として季節が要因となり起こる変動(季節変動)を取り除いた指数をいう。
- ・原指数…季節調整をしていない指数をいう。

3. 次回公表予定

令和7年3月21日予定

令和6年12月分

○総合指数前月比の伸び率に影響を与えた主な業種・品目

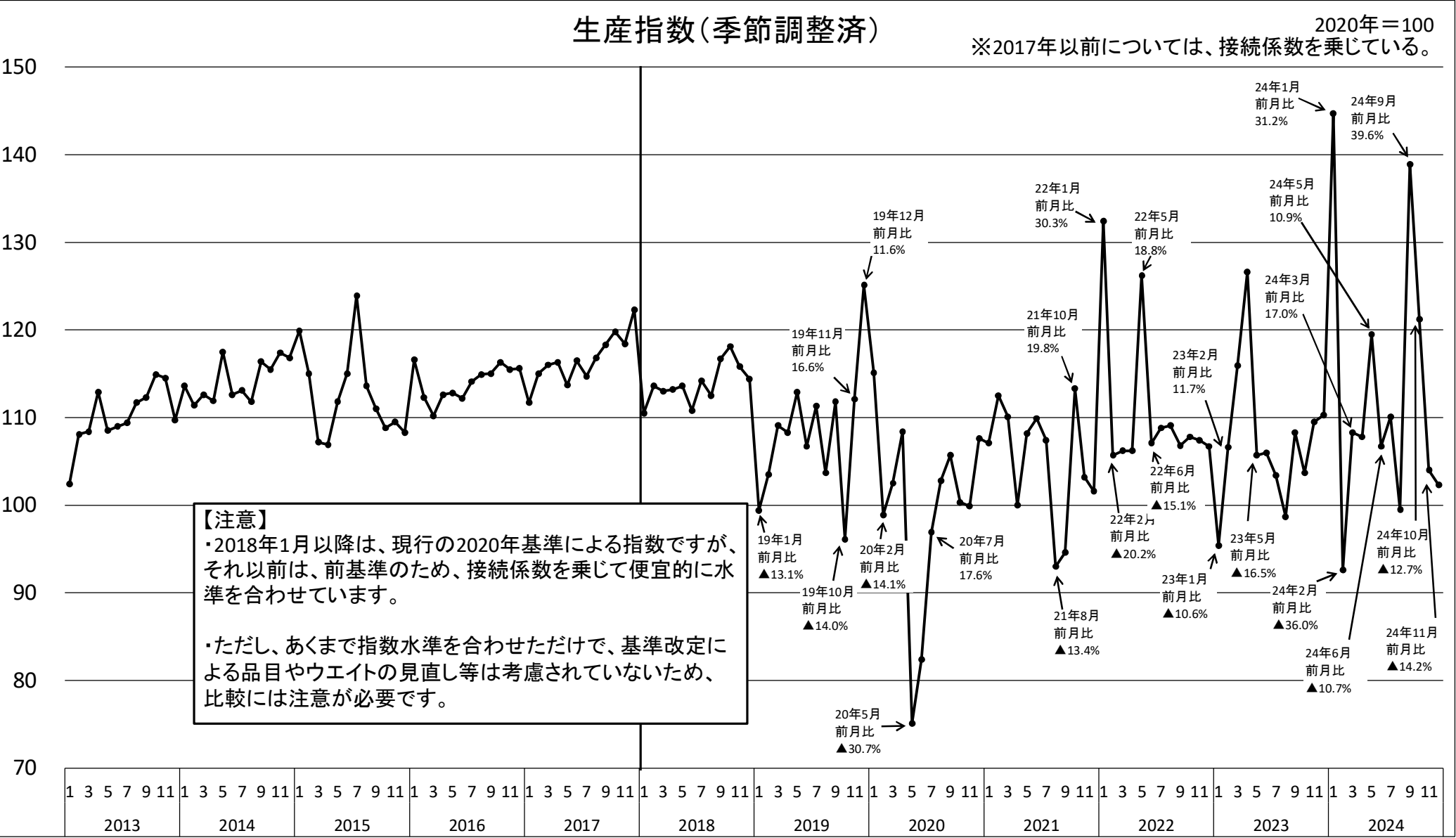
		業 種	前月比 寄与度	前月比%	寄与した主な品目	
生産	上昇	化学工業	2.2	17.8	医薬品製剤	
		電気機械工業	0.4	4.5	半導体・IC測定器	自然冷媒ヒートポンプ式給湯機
	低下	業務用機械工業	▲ 1.2	▲ 31.5	娯楽機器	
		電子部品・デバイス工業	▲ 0.3	▲ 15.8	セラミックコンデンサ	
出荷	上昇	化学工業	0.7	9.2	医薬品製剤	
		電気機械工業	0.5	6.5	電気温水器	半導体・IC測定器
	低下	輸送機械工業	▲ 1.4	▲ 4.0	普通乗用車	ガソリンエンジン
		業務用機械工業	▲ 1.3	▲ 29.6	娯楽機器	
		情報通信機械工業	▲ 0.5	▲ 28.5	レーザプリンタ	ボタン電話装置
在庫	上昇	化学工業	2.1	4.5	医薬品製剤	
		プラスチック製品工業	0.8	8.1	プラスチック製機械器具部品	
		生産用機械工業	0.5	4.6	ショベル系掘削機械	研削盤
	低下	電気機械工業	▲ 0.9	▲ 17.3	電気温水器	自然冷媒ヒートポンプ式給湯機
		汎用機械工業	▲ 0.4	▲ 3.5	室外ユニット(エンジンにより圧縮機を駆動)	コンデンシングユニット(7.5kW以上)

(注)寄与した主な業種・品目の掲載順序は、上昇、低下とも寄与の大きい順である。一部秘匿あり。

○前月比が最も大きかった業種

		業 種	前月比 寄与度	前月比%	寄与した主な品目
生産	上昇	印刷業	0.2	19.5	おう版印刷(グラビア印刷)
	低下	業務用機械工業	▲ 1.2	▲ 31.5	娯楽機器
出荷	上昇	印刷業	0.1	18.6	おう版印刷(グラビア印刷)
	低下	業務用機械工業	▲ 1.3	▲ 29.6	娯楽機器
在庫	上昇	情報通信機械工業	0.2	46.3	ボタン電話装置
	低下	電気機械工業	▲ 0.9	▲ 17.3	電気温水器

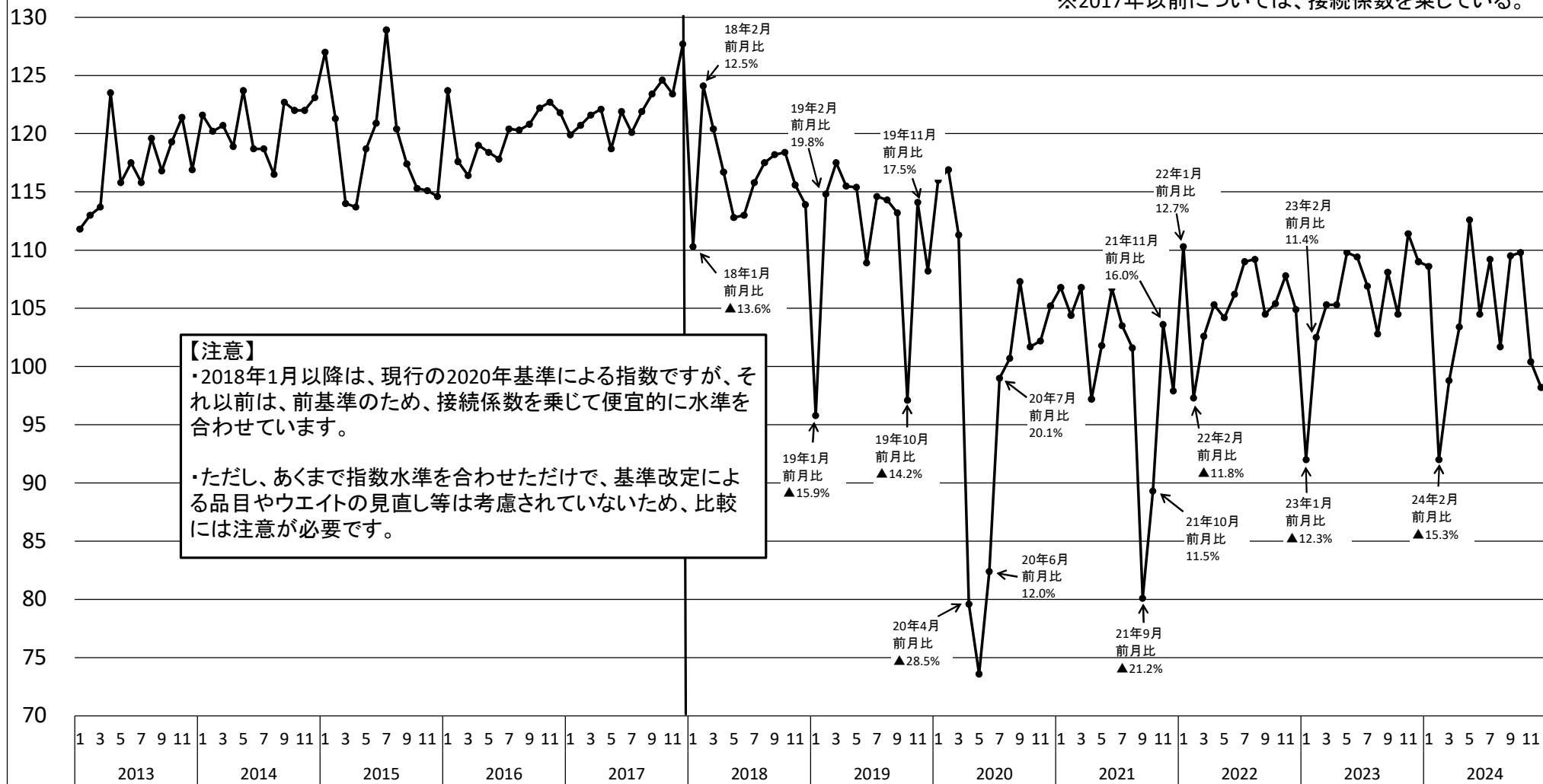
○群馬県鉱工業指数の動き



2015年基準:2013年～2017年 2020年基準:2018年～2022年 2025年基準:2023年～2027年(予定)
※2023年以降の指数については、2025年基準改定(2028年度頃実施予定)の際に、2025年基準で遡及して再計算する予定です。2025年の基準改定までは、2020年基準による指数を作成します。

出荷指数(季節調整済)

2020年=100
※2017年以前については、接続係数を乗じている。

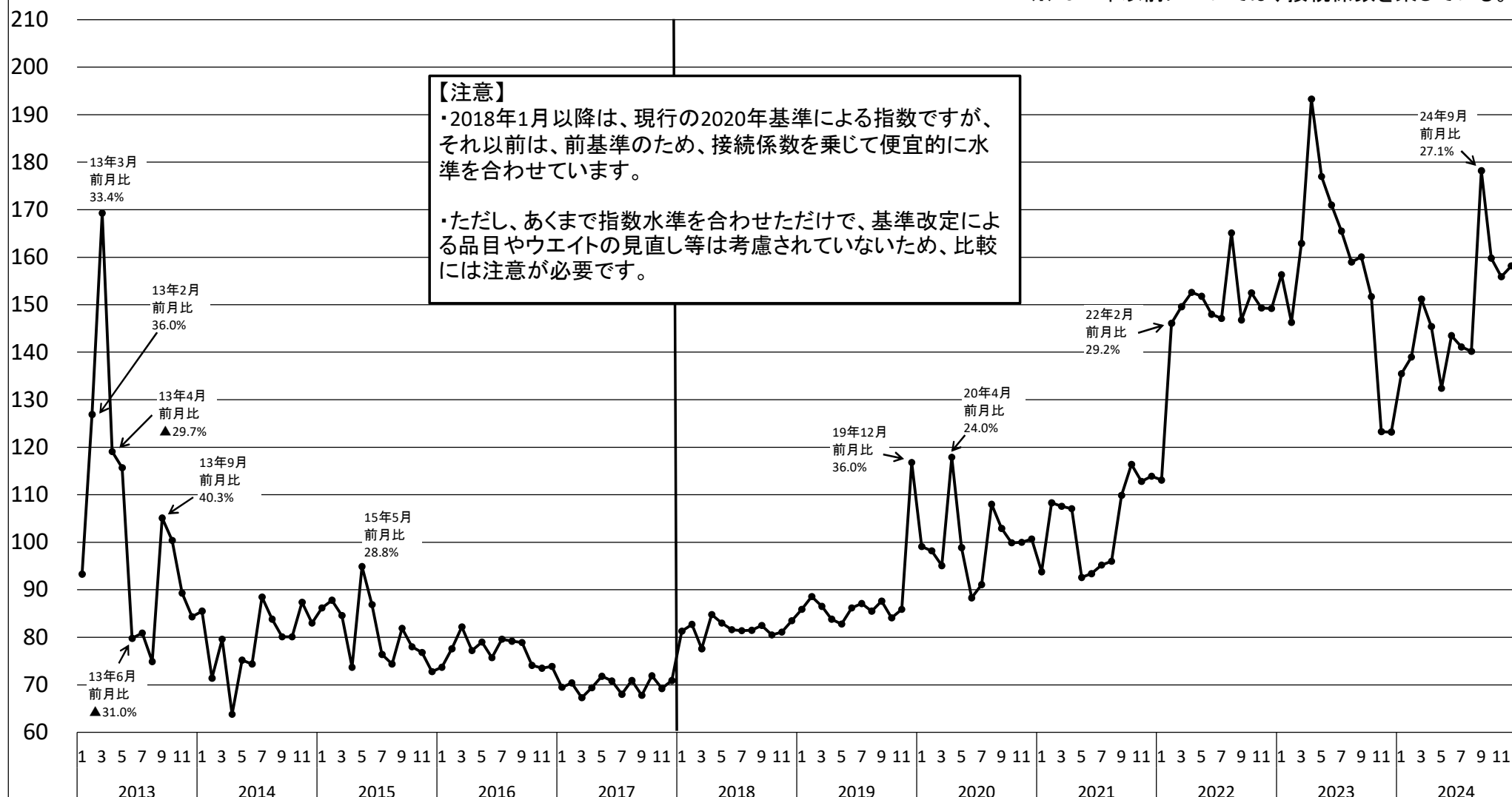


2015年基準:2013年~2017年 2020年基準:2018年~2022年 2025年基準:2023年~2027年(予定)

※2023年以降の指数については、2025年基準改定(2028年度頃実施予定)の際に、2025年基準で遡及して再計算する予定です。2025年の基準改定までは、2020年基準による指数を作成します。

在庫指数(季節調整済)

2020年=100
※2017年以前については、接続係数を乗じている。

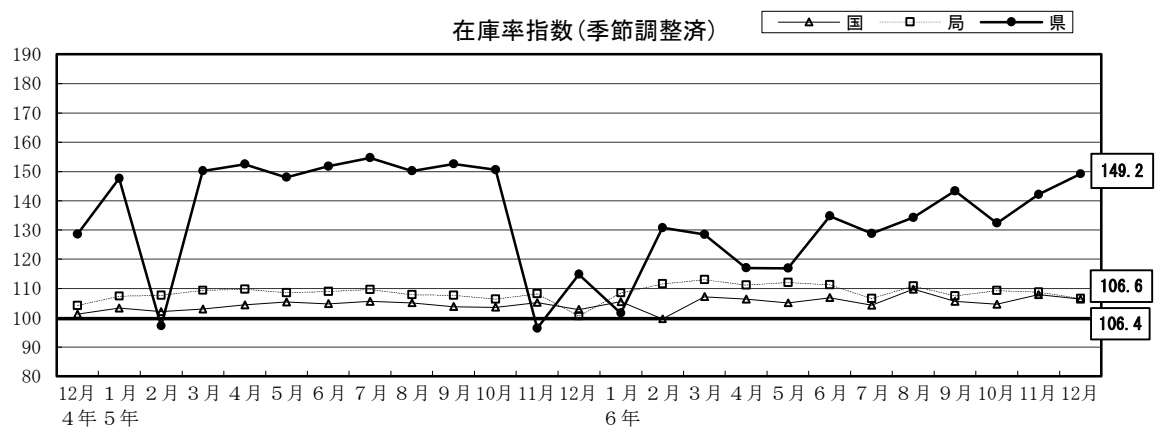
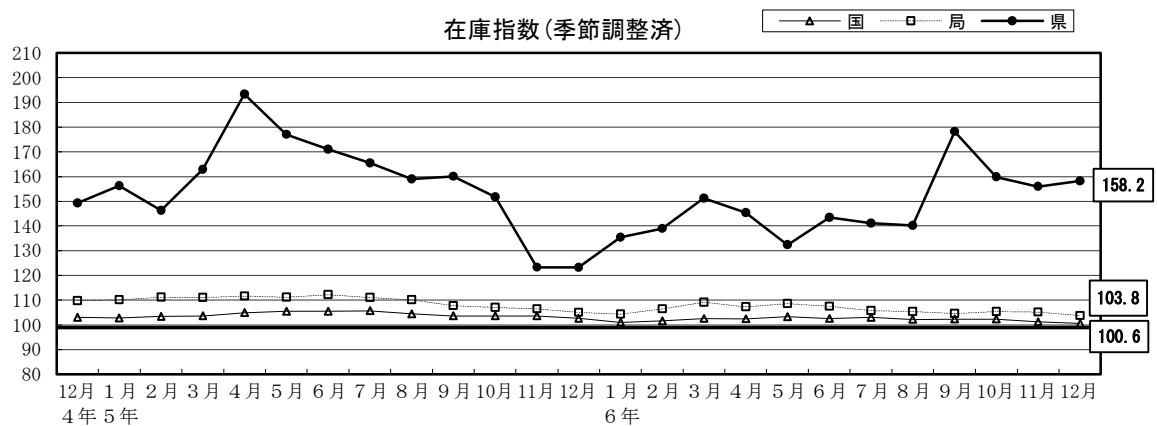
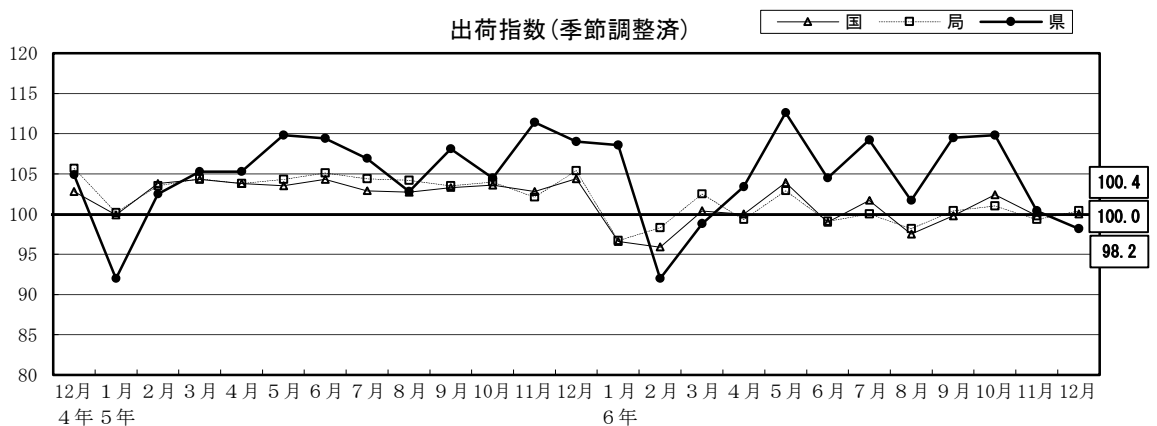
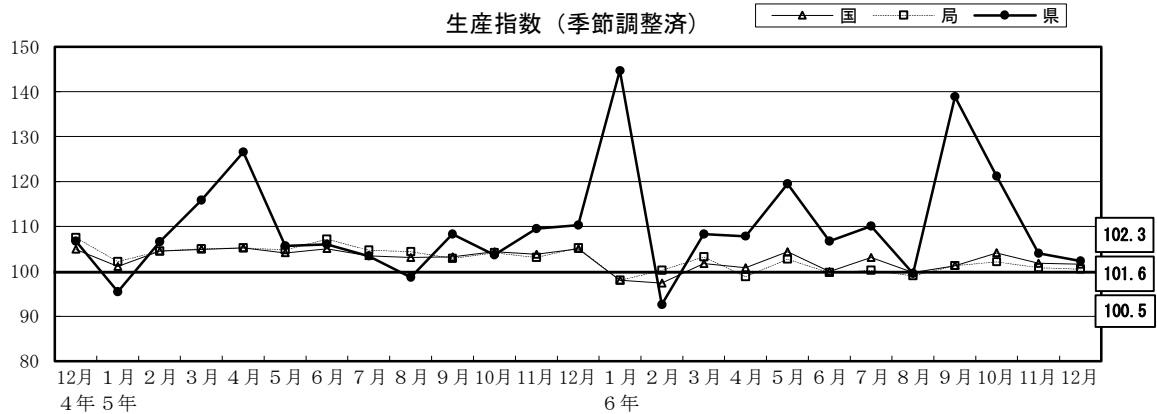


2015年基準:2013年～2017年 2020年基準:2018年～2022年 2025年基準:2023年～2027年(予定)

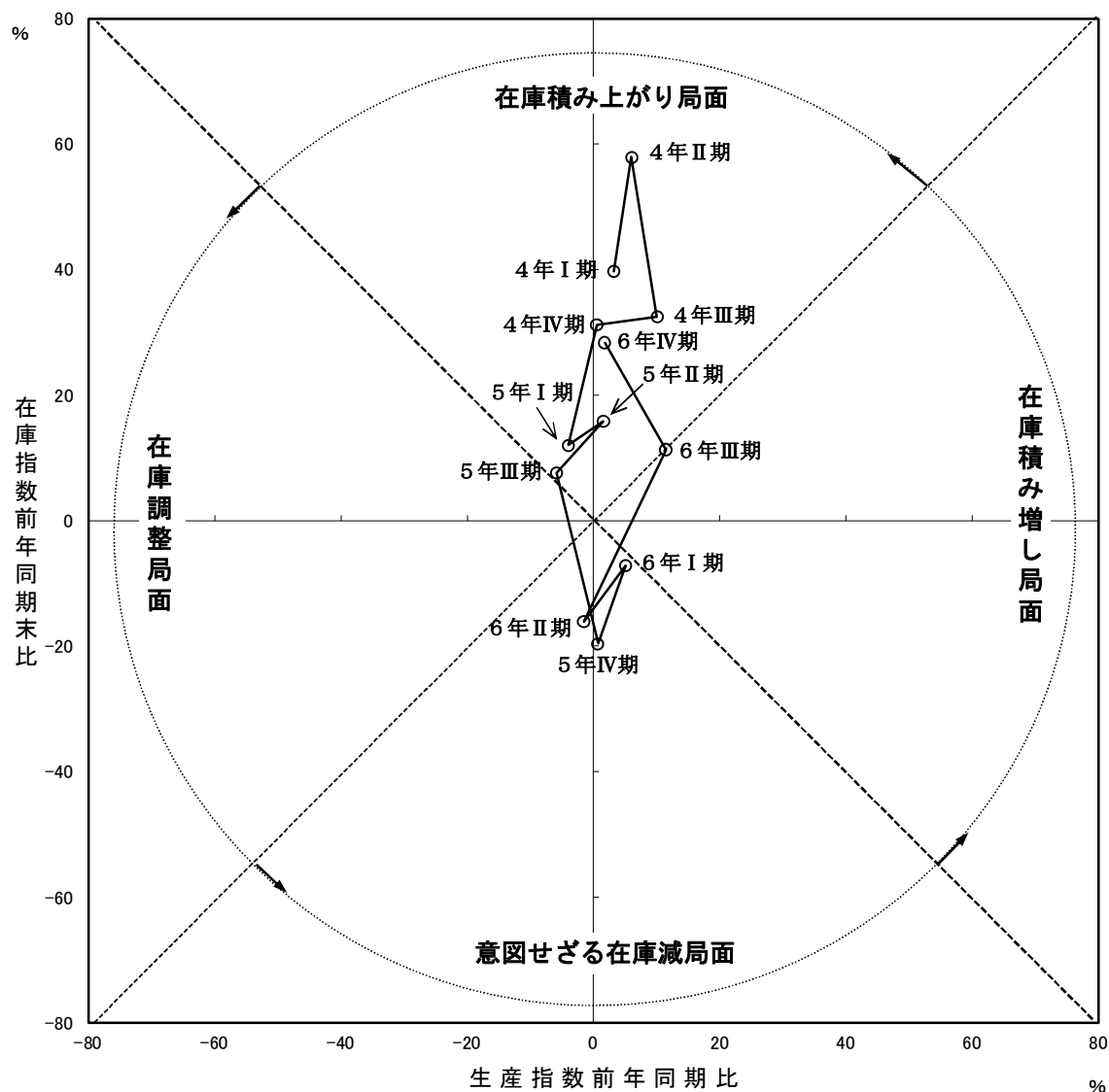
※2023年以降の指数については、2025年基準改定(2028年度頃実施予定)の際に、2025年基準で遡及して再計算する予定です。2025年の基準改定までは、2020年基準による指数を作成します。

○ 全国・関東経済産業局との比較

2020年=100



○ 在庫循環図



意図せざる在庫減局面 (景気拡大初期)	需要が回復し、出荷が増加し始めるが、生産は停滞しており、在庫は減少する。
在庫積み増し局面 (景気拡大期)	生産、出荷ともに好調に推移し、減少していた在庫も積み増しされる。
在庫積み上がり局面 (景気後退初期)	生産に比べ、出荷が減少し始め、在庫が積み上がる。
在庫調整局面 (景気後退期)	生産を調整することによって、在庫が減少する。